

授 業 科 目 名	必修・ 選択別	単位数	対象 学年	学 期	曜・限	主に使用 する言語	その他に使用 する言語	担当形態			
医療倫理学Ⅳ・メディカルインタビュー	必修	2	4	前		日本語		複数（共同）			
【担当教員】 医療倫理学 今井浩光 臨床薬理学 上村尚人											
【科目名の英文】 Medical Ethics IV, Medical Interview											
【授業の概要・到達目標】 医療倫理学Ⅱ、Ⅲで学習した臨床倫理、公衆衛生の倫理を振り返り、臨床実習に臨む前にその考え方を再確認する。関係性の倫理として、医療におけるプロフェッショナリズムと医療者-患者関係、医療コミュニケーションの学習を行う。また実践的態度、技能の修得のために、メディカルインタビューの実習を行う。講義と実習を通して、臨床実習開始時に必要な技能・態度を身につける。											
具体的な到達目標						医学科ディプロマポリシーとの対応					
						1	2	3	4	5	6
1. 医療者のプロフェッショナリズムを説明できる						○			○		○
2. 生活者としての患者を理解し、疾病・症状を有することの意味を全人的に捉えることの重要性を説明できる								○	○	○	
3. 適切な身だしなみ、言葉遣い及び態度で患者に接することができる						○	○		○		
4. 医療面接における基本的コミュニケーション技法を用いることができる						○	○		○		
各DPへの関連度（計10）						2	2	1	3	1	1
【授業の内容】											
回数	授業項目	授業内容			担当講座・教員	方法					
1	臨床倫理の再考	臨床倫理の振り返りと確認			医療倫理学・今井	講義					
2	個と社会の医療倫理	個と社会の関係性、医療・福祉政策の倫理			医療倫理学・今井	講義					
3	人生の最終段階の医療	エンド・オブ・ライフケアの倫理			医療倫理学・今井	講義					
4	メディカルインタビュー①	学生同士で医療面接のロールプレイ実習			医療倫理学・今井 臨床薬理学・上村	実習					
5	メディカルインタビュー②	模擬患者を対象とした医療面接実習			医療倫理学・今井 臨床薬理学・上村	実習					
【アクティブラーニングの内容】 医療面接の学生役及び患者役を全学生が演じ、体験し、面接についてのグループディスカッションを行う。					【その他の工夫】 学外の模擬患者が参画して、医療面接実習を行う						
【時間外学修の内容と時間の目安】											
準備学修	医療倫理学Ⅰ、Ⅱ、Ⅲの内容を復習する(14h) メディカルインタビュー実習の前に医療面接学習用ビデオを必ず視聴し、自身でシミュレーションを行う(14h)										
事後学修	講義資料を元に復習を行う(20h) 面接実習で把握した学習課題を中心に医療面接の練習を行う(20h)										
想定時間合計	68										
【教科書】 資料を配布する											
【参考書】											

斎藤清二『はじめての医療面接』医学書院、2000年、9784260138673

【成績評価方法及び評価の割合】

(医療倫理学IV) 筆記テスト 90%、受講状況 10%

(メディカルインタビュー) 臨床実習前 OSCE の医療面接評価 100%

【注意事項】 メディカルインタビュー実習は2回とも出席を必須とし、正当な理由がない欠席は失格とする

【備考】

リンク		
	URL	
教員の実務経験の有無	有	
教員の実務経験	附属病院の医師	
教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	有	
教員以外の指導に関わる実務経験者	医療面接模擬患者	
実務経験をいかした教育内容	診療の実務で起こる倫理的課題を教育内容に取り入れる	
授業形態	対面 一部リモートで実施する可能性がある	